

脊髄損傷の専門病院・総合せき損センター

～ 初期治療から社会復帰まで一貫としたチーム医療で挑む ～

〈はじめに〉

独立行政法人労働者健康福祉機構総合せき損センター（福岡県飯塚市）は、脊髄・脊椎疾患患者を対象とした専門病院で、特に脊髄損傷に注力した診療を行っている。

脊髄損傷は手足の麻痺などの障害が残ることが多いため、早期のリハビリテーションと社会復帰への支援が大きな課題となる。同センターはこれに対し、緊急の専門的手術的治療および全身管理等の初期治療から社会復帰に至るまで、医師、看護師、理学療法士、作業療法士など、多くのスタッフが一元となる同一施設でのチーム医療で取り組み、脊髄損傷患者の社会復帰率 80.5%、患者満足度 80.8%（平成 23 年度）という成果を挙げている。

同一施設で急性期から慢性期まで一貫した治療を行う同センターのシステムは国内外から高い評価を受けており、全国の医師、看護師、理学療法士、作業療法士、学生などが研修・見学・視察の目的で年間 800 人以上訪れる。

本紙面では、同センターの芝啓一郎院長、中央リハビリテーション部門の上田利一部長、室弥雅子看護部長へのインタビューを通し、昭和 54 年の開設当初からチーム医療により、脊髄損傷患者を長期間にわたってフォローしてきた取り組みを紹介する。

2012 年 11 月 28 日

Healthcare note

(No. 12-18)

取材先：
独立行政法人
労働者健康福祉機構
総合せき損センター

執筆・編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
吉田 啓
河添 麻美

野村證券株式会社
金融公共公益法人部